

◎食物栄養学専攻カリキュラムマップ

食物栄養学専攻ディプロマポリシー

食物栄養学専攻は、自身の専門分野に軸足を置き、その専門的な観点から未来の持続的発展のために、グローバル化社会の抱える地球的規模の課題を、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる実務的人材を養成する。この観点から、本専攻では以下の3つの能力を身に付けた者に学位を授ける。

<知識・技能>

1. 食と健康について幅広い知識を持ち、その分野特有の技術を実践の場で活用できる
- <思考力・判断力・表現力>
2. 食と健康に関する諸問題を科学的に考え、事実とそれに対する考察の過程を論理的に表現することができる
- <主体性・多様性・協調性>
3. 多様な価値観を認めながら他者と協働し、ねばり強く食と健康の課題に取り組むことができ、また、自らの専門性を背景に健康的な食生活について提案することができる

栄養士モデル

授業科目	配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3
		必修	選択						
社会生活と健康	社会福祉	2	2		社会福祉の基本的な考え方、体系、実践とその方法について学ぶ	①(土台となる力を養う)社会福祉の基本的な考え方を説明できる ②(生きる力を養う)社会福祉の実践や思想を学ぶことを通して、社会福祉サービスの意味を知る。そして、実際に使える福祉制度を知り説明できる。 ③(繋がる力を養う)社会福祉の実践を学ぶことで、地域社会で様々な資源を利用しながら人々をつなげていくための素地を形成する。			
	公衆衛生学	2	2		衛生学、公衆衛生学の基本を身に付け、我が国の公衆衛生活動を理解する	1)公衆衛生の役割を理解し、その重要性を理解することができる(理解)。 2)保健統計から感染症、生活習慣病、環境衛生・環境問題、福祉について理解することができる(理解)。 3)ライフステージ別の健康管理について理解することができる(理解)。 4)保健制度について理解することができる(理解)。 5)公衆衛生に関する諸問題について調査、資料を作成、発表することができる(技能)。	◎	○	◎
人体の構造と機能	解剖学及び生理学	1	2		自らの身体に関心を持ち、人体の構造と機能を理解する	(1)人体の構造と機能に関する用語やその意味を正しく説明できる。 (2)身体機能を構造と結びつけ正しく説明できる。 (3)正常な構造と機能から異常になる仕組みを推察できる。	◎	△	○
	解剖生理学実験	2	1		実験を通して生命現象の理解を深める	(1)行った実験をレポートにまとめ報告できる(理解・技能) (2)実験室でのルールとマナーを守り、グループで協力して実験できる(技能) (3)得られた結果に対して正しく考察することができる(理解・技能) (4)人体の構造と機能について理解を深め、異常となる仕組みを推察できる(知識・理解)	◎	○	◎
	運動生理学	2	2		運動による身体の生理学的な変化を探る	①運動器に関する解剖生理について理解することができる。 ②運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その仕組みを理解することができる。 ③生活習慣病に対する運動処方を作成することができる。	○	○	◎
	生化学	1	2		生体成分の機能と代謝の学習を通して、人の体内で何が起きているかを考える	1)細胞の構造と機能を説明できる(知識・理解) 2)生体成分の構造と機能及び代謝を説明できる(知識・理解) 3)代謝の調節及び生体防御機構を説明できる(知識・理解)	◎	◎	△
	生化学実験	2	1		生体成分に関する実験を通して、生化学で学んだ内容を検証する	1)他者と協力して、実験を進めることができる(技術・態度) 2)各種生体成分の定性及び定量実験を通して生体成分の特性を説明できる(知識・理解・技能) 3)酵素活性の測定実験を通して酵素の特性を説明できる(知識・理解・技能) 4)実験結果をレポートにまとめることにより、他者にわかりやすく伝えることができる(技能・態度)	◎	◎	△
	病理学	2	2		病理学に基づいた、疾患についての正しい知識を身につける	(1)病理学について学び、その知識に基づいて、疾患の原因や成り立ちを考察することができる。 (2)栄養学的な知識からその疾患に対しての治療や治療補助、疾患の進行予防に貢献できる。	◎	◎	◎
専門教育科目	食品学総論	1	2		食品に含まれる成分の化学を通して、人の健康と食品の関係を考える	(1)人間と食品の関わりについて歴史の変遷と食物連鎖の両面から説明できる(知識・理解) (2)食品成分の分析方法を説明できる(知識・理解) (3)食品成分の化学的性質・栄養特性・物性を説明できる(知識・理解) (4)食品成分及び食品成分間の反応を説明できる(知識・理解) (5)食品のおいしさの総合評価方法を説明できる(知識・理解)	◎	○	△
	食品学各論	2	2		食品素材の種類と特性を通して、食品の取り扱い方や利用方法、食品と健康について考える	1)食品の種類と規格を説明できる(土台となる力) 2)食品の特性と機能性を説明できる(土台となる力) 3)食品の利用方法を説明できる(土台となる力) 4)食品の表示と規格管理について説明できる(土台となる力) 5)食品について自ら調べ、他者に伝えることができる(土台となる力、つながる力)	◎	○	△
食品と衛生	食品学実験	1	1		食品成分の分析を通して、食品学の講義で修得した知識の確認とともに、食品について理解を深める	1)他者と協力して、実験を進めることができる(技能・態度) 2)食品成分の分析法を説明できる(知識・理解) 3)食品成分の分離、変化について実験により確認することができる(技能) 4)官能検査を行い、その理論を説明できる(知識・理解・技能) 5)実験結果をレポートにまとめることにより、他者に分かりやすく伝えることができる(技能・態度)	◎	○	◎
	食品衛生学	1	2		飲食に起因する健康危害の種類を知り、その適切な防止策を考えることができる	(1)食品の生育・生産から調理、飲食にいたる過程における衛生上の留意点が説明できる。(知識・理解) (2)食の安全についての問題に関心を持ち、正しく考えることができる。(知識・理解) (3)食の安全のための衛生管理の実践について科学的、具体的な説明ができる。(知識・理解) これらの到達目標はディプロマポリシー「土台となる力」の栄養士・栄養教諭として必要な知識を有すること、「生きる力」栄養・健康問題において自らの課題とその解決方法を見つけ、行動変容する力を有することに深く関連しており、自らがキャリア開発に努め、食べ物を通じて健康づくりに携わる意思を有することにも関連する。	◎	◎	○
	食品衛生学実験	2	1		細菌検査法、食品衛生管理技術を修得する	(1)班で協力して細菌検査ができる(技能) (2)行った実験をレポートにまとめ報告することができる(知識・理解) (3)調理をする際の手指、器具、施設、設備などの正しい洗浄と消毒が実践できる(技能)	◎	◎	○
栄養と健康	食生活論	1	2		食生活の現状と課題をとおして、望ましい食生活を考え、自らの食生活に生かしていく力を養う	1)食生活の現状と課題について説明することができる(知識・理解) 2)自らの健康と食生活を見直す(態度) 3)年齢の食文化を説明することができる(知識・理解)	◎	◎	◎
	基礎栄養学	1	2		栄養素の栄養的意義と消化吸収形態について理解し、栄養と健康の関わりを考える	(1)栄養と栄養素の違いを説明することができる(土台となる力) (2)摂食行動を調節する因子について説明することができる(土台となる力) (3)各栄養素の消化と吸収について説明することができる(土台となる力) (4)各栄養素の体内における働きについて説明することができる(土台となる力) (5)栄養と健康の関わりを説明することができる(生きる力)	◎	△	◎
	応用栄養学	1	2		成長・加齢に伴う身体の変化と栄養の特性を理解し、各年代の疾病の特徴と栄養管理について理解する	(1)各ライフステージの生理学的特性について説明できる(土台となる力・知識・理解) (2)各ライフステージのアセスメント指標について説明できる(土台となる力・知識・理解) (3)各ライフステージの栄養ケアの方法について説明できる(土台となる力・知識・理解) (4)各ライフステージの栄養・健康課題とその解決策を提案することができる(生きる力・問題解決能力)	◎	○	◎

授業科目	配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3
		必修	選択						
栄養と健康	応用栄養学実習	1	1		各ライフステージにおける生理的特性に合わせた食事作りを学ぶ	(1)各ライフステージにおける生理的特性と栄養課題を説明できる(土台となる力:知識・理解) (2)各ライフステージにおける調理上の注意点や工夫点を説明できる(土台となる力:知識・理解) (3)各ライフステージにおける栄養素等必要量を算出できる(土台となる力:技能) (4)栄養ケアプランに基づいた献立作成ができる(生きる力:問題解決能力) (5)グループ内で話し合い、協力して調理作業ができる(つながる力:態度)	○	◎	◎
	臨床栄養学	2	2		日本の食生活の現状と問題点を把握し、生活習慣病の予防法及び疾病に応じた栄養管理ができる人材育成	1)「食」が健康づくりに重要な役割を果たしていることが理解できる(土台となる力:知識・理解) 2)疾病や身体状況に応じた栄養管理の方法を説明できる(土台となる力:知識・理解) 3)生活習慣と疾病の関連性を理解し、疾病予防の知識を修得できる(土台となる力:知識・理解) 4)自らの食生活を分析し、問題点と改善方法を見つけ、「食」への意識改革ができる(生きる力)			
	臨床栄養学実習	2	1		食事療養における献立の展開と治療食を学ぶ	1)病院栄養部門が担当するおもな業務を理解できる(知識・理解) 2)栄養アセスメントの意義と栄養パラメータの実際を理解できる(知識・理解) 3)栄養補給法と食事療養の位置づけを理解できる(知識・理解) 4)目的別(一般治療食、特別治療食、検査食、栄養療法食)、料理形態別による治療食の区分を理解でき、さらに特別治療食の栄養成分コントロールを中心とした区分を理解できる(知識・理解) 5)食事療養における献立の展開ができる(技能)	◎	◎	◎
	特殊栄養学実習	2	1		高齢者における咀嚼・嚥下機能低下やスポーツ選手など特殊な環境での食事管理について理解を深める。	(1)咀嚼・嚥下機能低下の栄養管理について説明できる(土台となる力) (2)咀嚼・嚥下機能低下に対応した食事を調理することができる(生きる力) (3)スポーツ選手の栄養管理について説明することができる(土台となる力) (4)特殊な環境における栄養課題について解決策を提案することができる(生きる力) (5)グループ内で協力し、他人の意見を聞くなど共同して作業ができる(つながる力)	○	○	◎
栄養の指導	栄養教育論	1	2		栄養教育・指導による適正な食行動への変容を理解する	1)栄養教育・指導の意義と歴史について理解し、説明できる(知識・理解) 2)栄養教育・指導の目的と目標について理解し、説明できる(知識・理解) 3)栄養教育・指導の方法と栄養管理、健康管理について理解し、説明できる(知識・理解) 4)ライフステージ別および疾病別栄養教育・指導の方法を理解し、説明できる(知識・理解) 5)栄養教育・指導により適正な食行動への変容へ導く技能が習得できる(技能)	◎	◎	◎
	栄養教育論実習	2	1		栄養教育・指導論で習得した基礎知識を応用し、行動変容の実践へ活用する	1)栄養アセスメントを理解できる(知識・理解) 2)栄養把握に必要な基礎知識が習得できる(知識・理解) 3)生活活動調査、身体状況調査、栄養調査の実践ができる(技能) 4)対象に応じた献立作成ができる(技能) 5)栄養教育・指導の実践ができる(技能)			
専門教育科目	食育実践実習	2	1		地域集団の健康・栄養課題を解決するための栄養教育のマネジメントサイクルについて理解を深め、食育実践を通して技術を習得する	(1)栄養アセスメントについて説明できるとともに、実践できる(土台となる力、生きる力) (2)栄養アセスメントに応じた媒体の選択、栄養教育計画の立案ができる(土台となる力、生きる力) (3)栄養教育計画を実践し、評価することができる(生きる力、つながる力) (4)班内で協力し、他人の意見を聞くなど共同して作業ができる(つながる力)	○	○	◎
	栄養カウンセリング論	1	1		栄養士として必要なカウンセリングマインド・カウンセリングスキルを身につける	1. 栄養士として栄養教育を行う際に必要となる心理学の基本的な知識を論じることができる(知識・理解) 2. カウンセリングスキルを身に付け、栄養教育に応用することができる(技能) 3. 栄養士としてかわる対象者の行動や心理に配慮して、事例検討に参加できる(態度)。	○	◎	○
	栄養情報処理	2	1		情報機器を用いた栄養教育教材の作成と栄養教育における情報・統計処理	1)PowerPointの基本的な操作ができる(土台となる力) 2)PowerPointを利用して対象者が理解しやすい栄養教育教材を作成できる(土台となる力、生きる力) 3)作成した栄養教育教材をクラス内で発表できる(つながる力) 4)Excelを利用した基本的な情報・統計処理の操作ができる(土台となる力)			
	公衆栄養学	2	2		公衆栄養活動についての基礎知識を得ると同時に実践の方法を学ぶことにより、栄養士職への関心と理解を促す	(1) 社会における公衆栄養の現状と役割を説明することができる。 (2) 個々の食習慣から疾病と対策を説明することができる。 (3) 公衆栄養の活動における栄養士の役割を説明することができる。	◎	◎	◎
給食の運営	調理学	1	2		調理への応用や献立作成に活かすことができるように、食品の調理性や調理操作、調味操作を学ぶ	1) 食事計画ができる(技能) 2) 食品の調理性を説明することができる(知識・理解) 3) 調理操作および調味割合を理解し、応用できる(技能)	◎	△	
	調理学実習	1	1		食品の取り扱いや基本的調理操作を身につけ、おいしく、見栄えよく調理・提供できるようにする	1) 食品および包丁の正しい扱いができる(技能) 2) 基本的調理操作や調味操作を理解し、調理できる(知識・理解、技能) 3) 材料の発注、栄養価の算出ができる(技能)	◎	◎	△
	調理学実験	2	1		調理に関する基礎的な実験を通して調理素材の特性を理解し、実際の調理や食事提供に応用できる力を養う。	1) 食品の調理性について理解できる。(土台となる力:知識・理解) 2) 官能評価等により食べ物のおいしさや特性が理解できる。(土台となる力:知識・理解) 3) 調理技術の要点を体得し、再現性よく、おいしく作ることができる。(土台となる力:技術)	◎	○	
	給食管理	1	2		給食施設における特定多数の人々の栄養管理を、効率的かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて、経営管理の理論に基づき学ぶ	1)給食施設における給食の意義と目的について説明できる(土台となる力:知識・理解) 2)給食施設における栄養・食事管理について説明できる(土台となる力:知識・理解) 3)給食施設における生産管理、原価管理、安全・衛生管理について説明できる(土台となる力:知識・理解) 4)給食施設の位置づけと給食経営について説明できる(土台となる力:知識・理解)	◎	○	○
	給食計画論実習	1	1		給食実務論実習Ⅰ(大量調理)に向けて基本的な衛生管理を学び、試作調理を行う	1) 基本的な衛生管理を理解できる(土台となる力) 2) 栄養素等摂取量の評価をすることができる(土台となる力) 3) 大量調理の基本的な調理技術を習得できる(土台となる力) 4) 対象者に応じた栄養バランスのとれた献立を作成することができる(土台となる力) 5) だれとでも協調性をもって調理することができる(土台となる力、つながる力)	◎	◎	○

授業科目	配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3	
		必修	選択							
専門教育科目	給食の運営	給食実務論実習Ⅰ	2	2		定められた作業区域・時間・作業人員内で献立内容と食数(100食以上)に応じた調理作業を計画し実施する	1) 栄養・食事管理、食材管理、作業管理、安全・衛生管理の概要を説明できる(土台となる力:知識・理解) 2) 大量調理施設・設備を扱って作業ができる(土台となる力:技術) 3) 正しい衛生管理の実施と記録ができる(土台となる力:技術) 4) 主体的に取り組むことができる(生きる力:態度) 5) 円滑な人間関係をつくらることができる(つながる力:態度)	○	○	◎
		給食実務論実習Ⅱ	2	1		給食現場における実践を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識および技能を習得する	1) 校外実習の意義や目的を説明できる(土台となる力) 2) 給食業務の概要を説明できる(土台となる力) 3) 自己の課題を明確にし、目標を設定することができる(生きる力) 4) 給食施設における調理技術を習得できる(土台となる力) 5) 給食施設における給食計画・立案能力を修得できる(土台となる力) 6) 給食施設における給食実務に関する処理能力を修得できる(土台となる力) 7) 給食の運営に関する専門的知識と技術を統合できる(生きる力) 8) 周りの人に配慮し、良好な人間関係を築くことができる(つながる力) 9) 報告書の作成ができる(土台となる力)	◎	◎	◎
	総合演習Ⅰ	1	1		栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通して、栄養士を目指す気持ちを育む	(1) 栄養士の使命や役割について説明できる(土台となる力) (2) 大学生として必要な基礎知識について説明できる(土台となる力) (3) 栄養士として必要な基礎技術を実践できる(土台となる力) (4) 他者と協同して作業を進めることができる(つながる力)	◎	○	◎	
		総合演習Ⅱ	1	1		栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通して、栄養士を目指す気持ちを育む	(1) 食産業の課題について説明できる(土台となる力) (2) 卒業論文の概要について説明できる(土台となる力) (3) インタビュー調査結果をまとめ、プレゼンテーションができる(生きる力) (4) 他者とコミュニケーションがとれる(つながる力)	◎	◎	◎
	卒業必修	卒業研究Ⅰ	2	1		設定した研究テーマに取り組み、プレゼンテーション(卒業研究中間発表)を行う	(1) 論文の形式を学び、書き方を修得する(知識・理解) (2) 期限内に卒業論文を完成させるための計画を立てることができる(技能) (3) 研究テーマを決め、積極的に研究に取り組むことができる(知識・理解) (4) 自分の研究の意義、内容を説明できる(技能)	◎	○	◎
		卒業研究Ⅱ	2	1		設定した研究テーマに積極的に取り組み、プレゼンテーション(卒業研究発表)を行う	(1) 論文の形式を学び、書き方を修得する(知識・理解) (2) 期限内に卒業論文を完成させるための計画表を作成できる(技能) (3) 研究テーマを決め、積極的に研究に取り組むことができる(知識・理解) (4) 自分の研究の意義、内容を説明できる(技能)	◎	◎	◎
	外国語科目	英会話Ⅰ	1	2	2単位以上取得	英語で様々なことを話す自信を培う。	1) 英語と日本語における会話方法での文化的な相違を理解する 2) インタラクティブでフレンドリーな会話を運用することができる 3) 英語で自分自身、日常生活、地元、旅等のトピックについて述べる 4) 発音やフロンティックスのルールを理解して、より正確な英語の発音を身につける	○	△	○
		英会話Ⅱ	1	2						
		英語表現	1	2						
		英語コミュニケーションⅠ	1	2						
英語コミュニケーションⅡ		1	2							
基礎教育科目	生活統計	1	2	2単位以上取得	○率、×%など我々の身の回りには統計を基とした報道がされている。数字は報道の裏面となり、視聴者の理解をより高める。その数値はどのように導き出されるのか、統計処理の裏側を知り統計処理能力を獲得する。	□)数値やデータがどのように作成されたのか、その背後の状況を推察できる(土台となる力) (2) 社会に出回る身近な数値やデータを批判的に読み取ることができる(生きる力) (3) 正しい統計処理を自ら行うことができ、人へ説明、伝えることができる(生きる力、つながる力)				
		生活情報論	1	2		現代を生きるため、情報社会について学習する	(1) 情報社会において、正しい情報の取り扱いができる(土台となる力) (2) 身の回りにありふれている「情報」の理解ができる(生きる力) (3) 日々進歩する情報分野に対しての理解を深めると共に、他者へ伝える事ができる(生きる力、つながる力)	○	○	○
	生活情報処理Ⅰ	1	1		パソコンを利用した文章作成および発表資料の作成技術を学ぶと共に、日常生活で触れる機会のあるIoTについての理解を深める	(1)Word、PowerPointの2つのオフィスアプリケーションソフトウェアの活用ができる(土台となる力) (2)情報科学全般の知識を身につけ、活用ができる(生きる力) (3)Word、PowerPointを活用し、自身の意見を表現できる(生きる力、つながる力)				
	生活情報処理Ⅱ	1	1		パソコンを利用した表計算技術を習得する	(1)Excelで関数を利用した計算表とグラフを作成できる(土台となる力) (2)Excelでデータの並べ替えや抽出、処理などを柔軟な発想でできる(生きる力) (3)Wordとの連携によりレポートなどへの表やグラフの貼り付けを行い、人に伝達出来る処理を実現することができる(生きる力、つながる力)				
	心理学	2	2		現代社会を生きる人として、ためになる心理学を学ぼう	1. 心理学がどのような学問であるのかを的確に理解し、個別のトピックについて説明することができる(知識・理解)。 2. 心理学のさまざまな理論に基づき、生活の中での身近な出来事を、心理学的なもののみかたを用いて考えることができる(技能)。 3. 人間の心理・行動に関する身近なトピックについて、問題意識を持って考えることができる(態度)。	○	◎	○	
総合科目	文化人類学	1	2	必修科目を含め6単位以上取得	世界中の異なる文化に触れながら、人間の普遍性と多様性の関係を考察する	1) 文化人類学・社会人類学の基礎的知識を習得している。 2) 異文化および自らの文化に対する新たな見方を身につけている。 3) 世界各地の豊富な文化事例を通して、人間の多様性と普遍性について知り、具体例を挙げて説明できる。	△		△	
	日本国憲法	1	2		日本国憲法の理念と現実について理解し、考察を加える。	(1) 社会事象について法的側面から理解することができる。 (2) 理解した事象の内容を考察することができる。 (3) 事象の内容を整理することができる。 (4) 事象について説明することができる。 (5) 様々な事象を比較し、未知の課題について考えることができる。	△	△	△	
	人権論	2	2		日常生活と人権	1) 三重県人権教育基本方針の理解することができる(目標1)「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 2) 人権教育の歴史の理解することができる(目標2)「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 3) 人権教育のテーマの広がり理解することができる(目標3)「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 4) 日常生活における人権意識を身に付けることができる(目標4)「生きる力」(思考力・判断力・表現力)(主体性・多様性・協働性) 5) 他者との協同を通して課題解決を行うことができる(目標5)「つながる力」(思考力・判断力・表現力)(主体性・多様性・協働性)	○	○	○	

基礎教育科目	授業科目	配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3	
			必修	選択							
基礎教育科目	環境論	2		2		環境問題を科学的にとらえ、その影響が地域の風土や生活水準により異なることを理解し、相応しい対策を考える	1)基礎教養として地球温暖化、水汚染等の原因と結果を科学的に理解し、生活や健康への影響を論理的に説明できるようにする。 2)様々な問題に対して状況を的確に把握し、地域、世代、文化の異なる人々が納得できる解決方法を提案できるようにする。 3)現代の環境問題は我々の誰もが加害者であり被害者であること、環境保護を唱えるだけでは「安全な生活を送る」に一人ひとりができること(しなければならないこと)を提案・実行できるようにする。 4)グループワークを通して他者との意見交換、討論によって導いた結論を発表できるようにする。				
	キャリアデザインⅠ	1	2			「社会人」とは何か、その基礎的理解と自己分析を試みる。	(1)キャリアデザインと大学生活について考える(理解、態度) (2)社会人について考えることができる(知識、理解) (3)社会人とは何かを説明することができる(技能、態度) (4)社会人としての自己分析にチャレンジする(理解、態度) (5)自己の社会人基礎力をプレゼンテーションできる(技能、態度)	△	△	△	
	キャリアデザインⅡ	2		2		社会人基礎力の到達度を振り返り、将来の社会人のイメージを構築する。	(1)キャリアデザインと大学生活について再考することができる(理解、態度) (2)社会人について詳細に説明することができる(知識、理解) (3)社会人基礎力と大学生活との関係について具体的な場面を想定して説明することができる(知識、理解) (4)社会人基礎力を高めることができる(技能、態度) (5)自己の社会人基礎力をアピールすることができる(技能、態度)	△	△	△	
	社会学	1		2		社会学という大学ならではの科目を通じ、現代社会を読み解ける力をつける。	(1)社会学というモノの見方を変える学問のことを他者に説明できる(知識・理解)。 (2)一般社会で見かける「数字」にだまされない批判的な姿勢を持つことができる(態度)。 (3)自らの言葉で他者に何かを伝えられるようになる(態度)。 (4)自己もしくは他者の人生をまとめること、もしくは写真と表現によって社会現象を説明できる(技能)。 (5)上記4つができ、社会学的視座を持って行動できる(技能、態度)。				
	科学と芸術の間	1		2		日本音楽と西洋音楽における音楽史及び世界の民族音楽を知ることで、音楽を歴史的観点から捉え、その多様性を学ぶ。	1)音楽が人類にとって重要なコミュニケーション手段であることを、音楽の歴史を通して理解することができる。 2)人類が構築してきた文明の中で、音楽が宗教や科学などに関わりながら果たしてきた役割について理解することができる。 3)西洋音楽、日本の伝統音楽、民族音楽の芸術史について理解することができる。	△	△	○	
	こころの癒しと音楽	1		2		音や音楽の癒しとは何かを、音楽療法的アプローチの視点に立った実践から学びます。また対象者や自分自身にとってのこころの癒しについても学びます。	1)音および音楽を用いた心の癒しや心の交流について理解することができる。 2)トーンチャイム合奏等を通して基礎的な音楽療法的技能を習得することができる。	△	△	○	
	生物学	1		2	(必修科目を含め6単位以上取得)	生物の進化と不思議な体のつりの秘密を探る	①地球誕生からそれぞれの時代の環境や繁栄した生物を適応という立場で理解する。 ②動物や植物の進化の道筋をダーウインの進化論をもとに考える。 ③メンデルの法則と遺伝について理解し、遺伝子やこれからバイオテクノロジーについて考える。 ④これまでの講義を踏まえ、我々ほどのように自然と関わって行ったよいかを考える。	○	○	○	
	鈴鹿学	1	2			鈴鹿市についての地球理解を深め、グローバルな視点で普遍化し、その活用や課題解決策を主体的に考える。	1 鈴鹿市の地球資源と施策に対する理解を深め、SDGsとの関連性も含めてグローバルな視点で普遍化することができる。 2 地域課題について主体的に考え、地域貢献できる。 3 地域貢献を通して自己のキャリアプランにフィードバックする。		○	○	
	日本語講義Ⅰ	1		2							
	日本語講義Ⅱ	1		2							
	日本語作文Ⅰ	1		2							
	日本語作文Ⅱ	1		2							
	日本語会話Ⅰ	1		2							
	日本語会話Ⅱ	1		2							
	ビジネス日本語Ⅰ	2		2			敬語などを含む待表現を学び、ビジネスにおける円滑なコミュニケーション能力を身につける。	1)敬語の役割を理解し、会話の中で適切に使える。 2)ビジネス日本語能力テスト(BJT)の問題が解ける。 3)自分の特性を客観的に判断した自己PRができる。 4)日本におけるビジネスの場面で望ましい対応ができる。	△	△	○
	ビジネス日本語Ⅱ	2		2			ビジネスの状況に合わせた適切な表現で、流暢に会話ができるようにする。	1)学んだ語句や文型を用い、ビジネスの状況に合わせ、会話ができる。 2)敬語を使ってインタビューをし、ビジネスマナーを身につける。 3)ビジネス日本語能力テストの問題が解ける。 4)ビジネスに影響を与える日本の文化、習慣を理解する。	△	△	○
	資格の日本語Ⅰ	2		2			日本語能力試験N1レベル、J.TEST実用日本語検定B級以上の日本語を学習し、日本語によるコミュニケーション能力の基礎となる知識を得る。	1. 日本語能力試験N1レベルの漢字・語彙、文法、読解力を身につける。 2. 学習していないことであっても、すでに知っている知識などを活用して考え、問題の正解を導くことができる。 3. 将来(授業終了以降)の日本語学習について自分で目標や計画を立て、一人で学習を続けていくことができる。			
	資格の日本語Ⅱ	2		2			日本語能力試験N1レベル、J.TEST実用日本語検定B級以上の日本語を学習し、日本語によるコミュニケーション能力の基礎となる知識を得る。	1. 日本語能力試験N1レベルの漢字・語彙、文法、読解力を身につける。 2. 学習していないことであっても、すでに知っている知識などを活用して考え、問題の正解を導くことができる。 3. 将来(授業終了以降)の日本語学習について自分で目標や計画を立て、一人で学習を続けていくことができる。			
	ボランティア活動Ⅰ	1		1							
	ボランティア活動Ⅱ	1		1							
	インターンシップⅠ	1		1							
	インターンシップⅡ	1		1							
	海外研修Ⅰ	1		2							
海外研修Ⅱ	1		2								
海外研修Ⅲ	1		2								
海外研修Ⅳ	1		2								
保健体育科目	スポーツと健康Ⅰ(実技)	1		1		実践的なスポーツ活動を通して、生涯スポーツの基礎を作る	①健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和を図ることができる。(知識、理解) ②それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動に参加することができる。(態度) ③生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。(態度、技能)	○	○	◎	
	スポーツと健康Ⅱ(講義)	1		1		生涯にわたる健康とスポーツについて考える (SDGs目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確実にし、福祉を推進する)	①心身ともに積極的かつ健全な健康観とは何かを理解できるようにする。(知識、理解) ②生涯にわたる健康を維持するための運動・スポーツの重要性を理解し、実践することができる。(知識、理解、技能) ③スポーツが持つ身体性、コミュニケーション力等、社会的側面を理解し、スポーツ文化に親しむことができるようにする。(知識、理解、態度)	○	○	○	
専門教育科目	スポーツ	健康スポーツ演習	2		2						
		スポーツ外傷・障害論(救急処置を含む)	2		2						
		コミュニケーション特殊講義Ⅰ	1		2		「食と健康」にまつわる様々なテーマについて、調べ、読み、書いて、発表する。	(1)日本の食と健康にまつわる課題について自分の意見を述べることができる。 (2)文献やインターネットから必要な情報を得て、その内容を要約できる。 (3)積極的にディスカッションに参加し、コミュニケーションをとることができる。	○	△	○
留学生	コミュニケーション特殊講義Ⅱ	1		2	現代の食と健康に関する課題やキーワードについて、調べ、読み、書いて、発表する。	(1)日本の食と健康にまつわる課題について自分の考えを理論的に述べることができる。 (2)文献やインターネットから必要な情報を得て、その内容を要約できる。 (3)積極的にディスカッションに参加し、コミュニケーションをとることができる。	○	△	○		

栄養士×栄養教諭モデル

専門教育科目	授業科目	配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3
			必修	選択						
教職科目	学校栄養指導論	1		2	必修	栄養教諭の職責を理解し、学校教育における食に関する指導の方法を身に付ける	1) 栄養教諭の役割及び職務内容を説明することができる(知識・理解) 2) 幼児、児童及び生徒の栄養に係る諸課題について説明することができる(知識・理解) 3) 食生活に関する歴史的及び文化的背景を説明することができる(知識・理解) 4) 食に関する指導の方法を実践することができる(技能、態度)	◎	○	○
	教育原理	1		2		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想の理解	1. 教育の意義・目的を理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 2. 教育の歴史的変遷と思想を理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 3. 国内外の教育制度や取り組み、課題を理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能)			
	教育課程論	1		2		教育課程の意味、果たす役割をとらえ、学校・園における教育課程の編成の重要性をとらえ、同時に、新しい教育課程の方向に関心を持って対処できるようにする。	1. 教育課程の意味や史的変遷が分かる。 2. 学習指導要領の目的、内容が分かる。 3. 特色ある教育課程について関心を持ちその特色を調べようとする。 4. 教育課程の編成の手続きを調べ、教育課程の果たす役割を知ることができる。			
	教職論	1		2		教職の意義及び教員の役割・職務内容について学ぶ。	1. 教職の意義を理解し、この仕事への適性を吟味できる。 2. 教員の役割・資質能力・職務内容等について理解できる。 3. 教職への意欲を高め、自己研鑽の意識が身につけられる。			
	教育と社会	1		2		教育に関する社会的事項について学ぶ。	1. 学校や子どもをめぐる変化や課題を理解できる。 2. 国内外の教育政策の動向について理解できる。 3. 地域連携や学校安全に関する取り組みを理解できる。			
	教育心理学	1		2		教育活動に役立つ心理学の基礎的な知識と考え方を身に付ける。具体的には「発達と学習および両者の関連」を学ぶ。	(1) 発達と学習に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。 (2) 発達と学習の関連、それらを教育活動に活かす方法に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。 (3) 発達と学習が促進されるための、幼児・児童・生徒と教師の心理に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。 (4) 発達と学習が促進されるための、教育活動のあり方に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。			
	特別支援教育演習	1		1		特別な支援を要する子どもへの理解と支援について	1. 様々な障がいや特別の支援を要することもついて、その特性に沿った支援のあり方を理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 2. 子ども同士のかかわりを育み、共に育ち合うインクルーシブ教育・保育、多文化共生教育・保育について、実践事例を通して学び、理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能) 3. 保護者への支援や関係機関との連携について理解することができる「土台となる力」(基礎的な知識・技能)			
	道徳、総合的な学習の時間・特別活動論	1		2		道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動の基本的知識を習得し、実践を学ぶ	1) 道徳の基礎概念、理論、歴史の知識を有し、教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解し、教育計画の意義、指導方法に関する基本的事項を理解している。 2) 総合的な学習の時間(小学校)の目標や学習の手だてを、新学習指導要領や学校現場の実践をもとに理解し、具体的な指導計画を作成できる。 3) 特別活動の指導の在り方、取組の評価・改善活動の重要性を理解し、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導・集団活動の意義や指導の在り方を理解している。	○	◎	◎
	教育方法と技術	1		1		アクティブラーニングとICTの活用	1. 教育方法の基本的事項の理解及び授業構成や指導技術の方法を習得する 2. 主体的・対話的で深い学びについて理解する 3. 授業実践へのICTの活用方法について理解する	○	○	○
	生徒指導論	2		2		生活指導の意義と目的について	①不登校や問題行動等の生徒指導の諸問題について、「生徒指導提要」をもとに考える、生徒指導の意義や目的について理解する。 ②栄養教諭の立場からみた学校全体の教育活動を考察し、チーム学校について理解する。 ③生徒指導についての実践的理解を得る。	◎	◎	◎
	教育相談の理論と方法	2		2		教育相談活動の基礎的な知識を学ぶ	1. 教育相談活動の重要性について説明できる。 2. 教育相談の基礎である傾聴と共感的態度を学びをはじめ、相談活動に必要な知識と態度を習得し、活用できる。 3. 授業内で得た知識をどのように実際の教育活動の実践場面で活用できるようにする。			
	栄養教育実習(事前事後指導を含む)	2		2		教育の理論と実践を教育現場において体験する	1) 栄養教諭に求められる役割を説明できる(知識・理解) 2) 基本的な教育技術や児童生徒理解の方法を実践できる(技能) 3) 教師としての見識、学識、態度を持ち、真摯に取り組むことができる(技能、態度)	◎	◎	◎
	教職実践演習(栄養教諭)	2		2		グループ研究を通して、信頼される栄養教諭のあり方を学ぶ	・誠実、公平かつ責任感を持って、児童生徒に接することができる(目標1)「土台となる力」 ・教員としての社会性や対人関係能力を身につける(目標2)「つながる力」 ・児童生徒とのあいだに信頼関係を築き、食に関する学級経営を行うことができる(目標3)「土台となる力」 ・自ら主体的に教材研究を行い、それを活かした授業を展開することができる(目標4)「生きる力」	◎	◎	◎

栄養士×フードマネジメントモデル

授業科目		配当 年次	単位数		備考	テーマ	到達目標	DP1	DP2	DP3
			必修	選択						
専門教育科目	フードマネジメント	カフェ・レストラン実習Ⅰ	1		1	フードマネジメントに必要な基礎知識と技能を身につけ、商品開発の理論を学ぶ	1) 商品開発の基本的な流れを理解できる(知識・理解) 2) 食品業界の課題に対し自分なりの解決策が導き出せる(技能) 3) おもてなしのこころと技術を身につける(技能、態度)	△	○	◎
		カフェ・レストラン実習Ⅱ	2		1					
		カフェ・レストラン実習Ⅲ	2		1					
		経営学総論	2		2	企業が利益を獲得するために 行う企業活動に不可欠な経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)が、効率的かつ有効に活用されている実態の把握	・現代企業の仕組み・制度と運営メカニズムを説明することができる。 ・現代企業が直面する重要な経営課題を説明することができる。 ・諸学説を現実の経営問題に関連付けることができる。			
		経済学総論	1		2	現実経済で起こっている諸問題について、経済学的な思考・観点から考える力を養う。	・経済学の基本的な知識や経済学的な考え方を理解し、日常生活における様々な意思決定に際し、合理的な決定に基づき力を身につける。 ・現実経済で起こっている様々な問題に関心を持ち、経済学的な考えに基づき自らの考えを論理的に説明する能力を身につける。 ・次年度以降のより高度な経済・経営学の講義を理解するための経済学の基礎を学び、社会人としての基礎力となる経済やビジネスに対する知識・関心を育む一歩とする。	◎	○	○
		観光概論	1		2	グローバルな視点で地域社会の状況を理解しながら、観光に関する基礎的な知識や動向について理解する。	・「観光」に関する現象、課題についての基本的な知識を修得できる。 ・地域課題の発見ができ、グローバルな視野を持って課題解決することができる。 ・国内外や三重県で取り込まれているさまざまな観光産業の動向について理解できる。 ・観光産業とSDGs(持続可能な開発目標)との関係を考察することができる。	◎	○	○
		おもてなし実践論	2		2	観光事業における「サービス」について学習する。そして「ホスピタリティ」についても学び、「サービス」との違いを理解する。また、ゲストスピーカーから「おもてなし」についての実践的な考え方を学習する。	① 観光についての概念や観光行動の特徴など基本事項が理解できる。 ② 日本国内の観光事業における「サービス」について理解できる。 ③ 「ホスピタリティ」という言葉について学習し、「サービス」との違いが理解できる。 ④ ①と②と③をふまえて、三重県内で観光事業に携わるゲストスピーカーから実践的な話を聞いて、客人をどのような考え方でもてなしているのかを学習して、理解できる。 ⑤ 「おもてなし検定 初級」にもとづいた「おもてなし」についても学習して、理解できる。			
国際ベンチャービジネス論	2		2							

◎食物栄養学専攻カリキュラムツリー



ディプロマ・ポリシー

食物栄養学専攻は、自身の専門分野に軸足を置き、その専門的な観点から未来の持続的発展のために、グローバル化社会の抱える地球規模的課題の課題を、他分野の研究成果を取り入れることに基づいてイノベーションを生み出すことができる実務の人材を養成する。この観点から、本専攻では以下の3つの能力を身に付けたい者に学位を授ける。

<知識・技能>

1. 食と健康について幅広い知識を持ち、その分野特有の技術を実践の場で活用できる。

<思考力・判断力・表現力>

2. 食と健康に関する諸問題を科学的に考え、事実とそれに対する有根の過程を論理的に表現することができる。

<主体性・多様性・協働性>

3. 多様な価値観を認めながら他者と協働し、ねばり強く食と健康の課題に取り組むことができ、また、自身の専門性を背景に健康的な食生活について提案することができる。

入学

卒業